明日を拓くモノづくり新技術 2026

主催：あいち産業科学技術総合センター・名古屋市工業研究所
ファインセラミックスセンター（ＪＦＣＣ）・名古屋商工会議所

モノづくり支援の３研究機関による　合同発表会

日時　2026 年 11 月 30 日（月）
13：00～17：00　受付開始　12：30
会場　あいち産業科学技術総合センター　１階　講習会室
豊田市八草町秋合 1267-1（東部丘陵線リニモ「陶磁資料館南」駅下車すぐ）
参加費無料　定員 80 名、見学は 40 名（いずれも先着順）

JFCC
ファインセラミックスセンター







県あいち産業科学技術総合センター

名古屋市工業研究所

【プログラム】

13：00～	開会挨拶
13：05 ～14：05	基調講演 「大豆イソフラボンによる大型メスウナギ生産技術の開発と社会実装」 愛知県水産試験場　漁業生産研究所 主任研究員　稲葉　博之　氏 近年、養殖に用いられる天然のウナギ稚魚が減少しているため、生産者からは、1 尾のウナギを大きく育て可食部を増やす技術の開発が望まれています。ウナギは養殖すると大半がオスになりますが、オスは大きくなりにくいという課題があります。一方、メスは大きく育ち易いうえに、身が柔らかいことから、愛知県水産試験場ではメスを効率的に生産する技術の開発に取り組みました。本講演では、技術開発の経緯や、知財化から製品化への取り組み、さらに社会実装について紹介します。 
14：05 ～15：45	各機関の発表　　６テーマ（発表順、詳細は裏面を参照）
16：00 ～17：00	知の拠点あいちの施設見学

申込方法：**11 月 25 日（水）まで**に下記のいずれかの方法でお申込みください。

1）**パソコンから**
名古屋商工会議所ホームページ　イベントカレンダー
（https://answer.cci.nagoya/mono/?code=06413789）
より登録してください。

2）**スマホから**
右記コードからお申込みください。　⇨

【３研究機関の発表】

14：05 ～ 14：20	**アナログ針読み取りシステムによるIoT化業務改善に関する研究** 名古屋市工業研究所 システム技術部　計測技術研究室　研究員　間瀬　剛 本研究では、レギュレータや圧力計などのアナログメーターをカメラで撮影し、画像処理技術により針の位置を自動認識して数値化するシステムを開発しました。取得したデータはブラウザ上で蓄積・可視化でき、時系列での変化の確認や異常の早期発見を可能としました。従来の目視確認や手書き記録を省力化し、設備管理業務の効率化およびIoT化によるデータ活用の有効性を検証しました。
14：20 ～ 14：35	**切削加工表面を持つSUS304の塩水環境下における疲労挙動** 名古屋市工業研究所 材料技術部　金属材料研究室　研究員　玉田　和寛 回転曲げ疲労試験機は短期間に疲労挙動を評価することができる装置であり、超高サイクル疲労特性の評価などに用いられています。これに腐食試験槽を取り付けることで、素早く簡便に腐食環境における疲労挙動を評価できます。本発表では、耐食性に優れ、幅広い環境で使用される材料であるSUS304の表面に切削加工痕が存在する場合に、塩水環境下で繰り返し負荷が与えられたときの破損挙動について紹介します。
14：45 ～ 15：00	**プロセスインフォマティクス総合プラットホームの構築** 一般財団法人ファインセラミックスセンター 主幹研究員　木村　禎一 セラミックスの製造プロセスは成形、乾燥脱脂、焼結などの要素プロセスから構成されており、多数の条件最適化が必要です。このような複雑な条件最適化のツールとして、JFCCでは各プロセスに対応するシミュレータの開発と、これらを接続した統合型プロセスシミュレータを開発しています。シミュレーションに必要なパラメータの取得やシミュレーション結果の検証のための実験を含めた「統合プラットホーム」の概要を紹介します。
15：00 ～ 15：15	**粒子衝突による緻密質セラミックス膜の常温成膜技術** 一般財団法人ファインセラミックスセンター 上級研究員　田中　誠 エアロゾルデポジション（AD）法は、ガスと粉末を混合させてエアロゾル化したものを低真空中・室温下で基板に高速衝突させ、緻密なセラミックス膜を形成できるコーティング技術であり、カーボンニュートラルへの貢献も期待されています。本発表では、AD法により形成した皮膜の組織や結晶配向性、成膜メカニズム解明に向けた取り組み、並びに期待される応用分野について紹介します。
15：15 ～ 15：30	**生酒の香りの劣化を抑制する技術の開発** あいち産業科学技術総合センター　食品工業技術センター 発酵バイオ技術室　主任研究員　三井　俊 フレッシュな香味が特徴の生酒は、「生老香」と呼ばれる劣化臭が発生しやすいという品質保持上の課題があります。生老香を抑制する方法として、低温管理以外では限外ろ過技術が挙げられますが、高額な設備投資が必要となるため、より簡便で効果的な生老香抑制技術が求められています。そこで、当センターの液状醸造食品を対象とした「たんぱく質吸着剤による品質劣化防止技術」を活用して開発した生老香の生成を抑制する技術を紹介します。
15：30 ～ 15：45	**金属積層造形技術のアルミニウムダイカスト金型への適用に向けた取組** あいち産業科学技術総合センター 技術支援部　試作評価室　主任研究員　梅田　隼史 金属積層造形法のひとつであるレーザ粉末床溶融結合法は造形対象の形状自由度が高いため、金型内部に３次元冷却水路を形成することができます。本技術をアルミニウムダイカスト金型に適用した場合、３次元冷却水路の高効率冷却による焼付き等の不具合発生の抑制が可能な一方で、金型寿命に関連する課題も指摘されています。本発表では、積層造形金型の後処理による長寿命化の取組を紹介します。

【お問い合わせ先】

あいち産業科学技術総合センター 企画連携部　0561-76-8306
一般財団法人ファインセラミックスセンター 研究企画部　052-871-3500
名古屋市工業研究所 支援総括課　052-661-3161
名古屋商工会議所 産業振興部　052-223-8606